

十二月九日は、障害者の日。昨年のこの日

の世界にも少なく、かのヘン・ケラ

に合わせ、NHKは特番組を放映。障害と

は何か、障害者が明るく生きていける社会と

は、その条件とは……と問い合わせた。この番

組で紹介された一人、福島智さん（28歳）は

自分が見えず、耳が聴こえない、盲ろう二重障

害者。現在は、東京都立大学の大学院博士課

程に籍を置き、将来は障害児教育、障害者問

題などに取り組みたいと教育学を専攻してい

る。盲ろう障害者が高等学の課程まで進む

に、夫婦の不安が家族を苦しめ

る。「涙腺が詰まっている。これは海

面倒、何回もトイレだらうが、

周りに光はない。全くの闇やみ

なってきた亡父と母の、ものの見方・考え方

の一端も紹介された。この放映を見た読

者なら、「この子はちゃんと守られているん

です」と、母・令子さん（57歳、教人）の

言葉を耳に留めているかもしれない。東京・

目黒に福島さん親子を訪ね、話を聞いた。

盲ろう二重障害を越えて

福島 令子さん 智さん母子

目黒・碑文谷公園。池の邊を、

白い水鳥がすばっていく。

「この池は、ひょうたんの形なん

だよ。でも、少しいびつなね。

。言葉は、令子さんの指先から

智さんの指へと伝わった。

「お前、智さんの中でもしょ

うと思ってるやつたら一人で

死ね」と勵ました。

打ったマッセージ、「サシ・ワ

さん、隼矢の指に、年たちの更生、

程は隼矢の指を絶えず握り

いた。そのお前、智さんの中でもしょ

うと思ってるやつたら一人で

死ね」と勵ました。

息子の前で、涙は止まない。

うつっていも、朝起きるとまく、く、伸びやかに支えたのが母なら、その母を力強く支えたのは妻に、「お前、智さんの中でもしょ父の正美さん、ようほく、故人。

うつていても、朝起きるとまく、く、伸びやかに支えたのが母なら、その母を力強く支えたのは妻に、「お前、智さんの中でもしょ父の正美さん、ようほく、故人。

たすけ心で明るい世界へ



指点字で語り合う福島令子さん、智さん母子(12月28日、目黒・碑文谷公園で)

福島さんと、智さんが初めて入院した昭和四十年からの付き合い。私のおばが隣のベッドにいた上で、「おうつけ」の取り次ぎを請われた。智さんは、人間の生きる魅力がある。だから大好きな人が、彼の入り口にさきのがさき、思つたが、修業科に入つて変わった。その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月半はまづつかの間に親子水入らずだ。

月の教会奉讃祭(「愛をまなぶ」教祖・おや英波大師附属学校に進

いたからこそ、何事も精神的に良

い方向に燃る「とがついた」と言

う。心地いい家庭に育ち、幼いころから体が弱かった令子さんは、幼い

二十五日、神戸生まれ。四日目ほ

どもある元気な子だった。心に神の名を祀っていた。

理教の家庭に育つた時だけは、

ふがはれ、通院。十月四日には「おそろい」を見つめる姿など

右耳の入り口にさきのがさき、小手術。難癡になつた。

その後の様子がなかなかしない。三歳四ヶ月の時、交感性

眼炎のため右目を失明。五歳(四

うに感じ、好きになつた」。だが、高校二年の夏か

で東京へ。一月